

「まち・ひと・しごと創生」の鍵

問 経済を強くし、雇用をつくることと目標があるが、三菱重工幸町工場の閉鎖が市の経済に及ぼす影響及び新幹線工事の残土活用による工業団地造成計画の進捗状況について伺いたい。

答 幸町工場の機能は、平成29年度末までに再編が完了すると聞いているが、その詳細が明らかにされていない部分もあり、移転が市税に与える影響は不透明であるが、再編により業績向上が期待される。今後の動向について、引き続き注視していきたい。

また、新幹線残土を活用した工業団地造成については調査をもとに田中町を最適地と判断し、整備を進めている。現在、用地交渉中であり、その手続きに、まだ若干の時間を要する見込みだが、平成28年2月議会に本事業の土地取得議案の提出を予定している。

公明党

夜景視点場へのAEDの設置

問 観光の大きな柱となっている夜景観光の拠点である稲佐山展望台及び鍋冠山展望台にAEDを設置し、市民や

観光客の安心安全を

守ることが必要だと

思うが、市としての

考えを伺いたい。



▲表示マークの例

答 稲佐山展望台付近のAED設置場所は長崎ロープウェイ駅舎であるが、駅舎の改修工事に伴い、現在は使用できない。ロープウェイの営業再開時には使用可能となるが、展望台はロープウェイの営業時間終了後も利用できることから、AEDを駅舎から展望台に移設する方向で早急に調整したい。

また、鍋冠山公園についても、展望台改修後はより多くの観光客が見込まれることから、設置に向け検討したい。

軍艦島における多言語音声コードの導入

問 スマートフォンを用いてコードを読み取るにより、最大28言語で音声ガイドサービスが利用できる技術を端島見学施設（軍艦島）に導入する考えはないか。

答 多言語コードによる音声ガイドサービスの提供は、利用者に対する案内を充実させる有効な手段であり、電源を用いないことから、端島見学施設におけるサービスの中でも優位性があると思われる。

このことを、軍艦島クルーズの各運航事業者に対して情報提供した結果、現在この事業者で組織される「軍艦島観光船協議会」から、文化庁に対して補助金の交付要望が行われている。

今後も、新たな技術に関する情報収集などを行いながら、受け入れ態勢の整備を進めていきたい。

城山小学校被爆校舎の保存活用

問 長崎原爆の凄まじさを今に伝える貴重な被爆構造物である城山小学校被爆校舎の早期修復と未公開部分の活用について、市の考えを伺いたい。

答 城山小学校被爆校舎については、より手厚い国の支援が受けられる文化財指定を目指している。校舎の経年劣化には応急的な補修が必要であり、補修のあり方について文化庁と協議を進めている。厚生労働省が予算化を進めている被爆建造物保存のための新たな補助制度についても、活用できるように協議していきたい。

また、非公開としている校舎の3階以上の部分については、被爆当時の現状に近い形で保存されており、その価値が高く評価されている。一方で、公開には安全確保など解決すべき課題はあるが、今後、検討していきたい。

創生自民

長崎版地域包括ケアシステムの構築

問 超高齢社会へ対応するための地域の実情に合ったシステムの実現に向け、どう取り組もうとしているのか。

答 システムの中核を担う地域包括支援センターでは、高齢者の総合相談窓口として必要な支援を継続的に行い、医療・介護の連携強化に向けた地域ケア会議の開催などを行っている。

また、平成27年10月には、医療、介護・福祉等の専門職や地域関係者などで構成する「長崎市地域包括ケア推進協議会」を設置したところである。

住み慣れた地域で安心して暮らし続けていただけるよう、医療・介護・福祉での既存の取り組みを活かしつつ、連携を強化し、進化させながら、人材の育成や確保策、必要な社会基盤の整備などを含めたシステムの構築に取り組んでいきたい。

スポーツコンベンション

問 スポーツをコンベンションと捉えることで、地域の活性化や国際的地位の向上など、地元経済の活性化につなげることができると考えるが、市の姿勢と具体的な取り組みについて伺いたい。